

# 教育研究業績書

2017年05月29日

所属：心理・人間関係学科

資格：教授

氏名：長岡 雅美

研究分野	研究内容のキーワード
運動方法学 スポーツプロモーション	運動能力 コーディネーション 幼児 高齢者 レジャースポーツ
学位	最終学歴
教育学修士, 文学士	大阪教育大学大学院 教育学研究科 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 地域連携と学生の主体的参加型授業	2016年～現在	5/18, 6/15, 7/13の3回の授業において、精神障がい者施設と連携し、スポーツを介した交流会を実施した。授業では、障がい者に配慮した安全な内容を学生自ら企画し、時間管理を含め、学生が主体的に交流会全体を運営した。また、施設代表者から利用者の特徴を聞いたり、学生からの様々な質問について答えてもらう機会も持ち、スポーツの可能性や利用者理解を深める授業を実施した。 科目名：障害とスポーツレクリエーション
2. 特色ある教育方法の実践例	2014年～現在	指導法の授業において、学生が互いに指導する場面を撮影し、録画されたビデオを見てそれぞれの指導場面を振り返ることにより、自己の課題を意識させ学習意欲を喚起させる工夫をしている。 科目名：レクリエーション指導技術
3. マルチメディア機器を利用した授業方法	2010年～現在	マルチメディアを使用し、授業に適切な教材を活用して講義内容の理解を深める工夫をしている。 科目名：レクリエーション概論、レクリエーション指導論、レクリエーションマネジメント
4. 学生の授業外における学習促進のための取組み	2010年～現在	本時に学習した実技内容をノートにまとめ、関連する内容について授業中に課題を出している。また、出された課題もすべてノートにまとめさせ、受講する間に作成したノート（成果物）が学習ファイルとなるよう指導をしている。 科目名：レクリエーションアクティビティ
5. 学生の授業外における学習促進のための取組み	2010年～現在	授業で学んだ理論を実践できるスポーツイベントにボランティアスタッフとして参加し、実際の組織運営やイベントのオペレーションを授業時間外で学ぶ機会を設定している。 科目名：専門演習 I AB, II AB
6. 特色ある教育方法の実践例	2010年～現在	授業の中で、ペアワークによって個別支援のプロセスを実践し、支援者の役割について理論と実践の両側面から学びの理解を深める工夫をしている。 科目名：レクリエーション指導技術、レクリエーション指導論、レクリエーションマネジメント
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 寝屋川市教育委員会 指導者講習	2017年3月17日	地域におけるスポーツ推進委員の役割（寝屋川市役所）
2. 全国スポーツ推進委員研究協議会	2016年11月18日	生涯現役社会の実現に向けたスポーツ推進員の役割（鯖江市文化センターホール）
3. 芦屋市立保育所公開保育	2015年9月	発育・発達に合わせた多様な動きを身に付ける運動遊び（新浜保育所）
4. 日本体育協会公認アシスタントマネジャー養成講習会講師	2014年6月	「対象者のニーズに合わせたプログラム作りの実際」（兵庫県民会館）
5. 富山市体育協会主催ジュニア実技指導講習会講師	2013年8月	「多様な動きをつくる運動～コーディネーション運動を取り入れて～」（富山市総合体育館）
6. 富山市体育協会主催高齢者の健康体力づくり指導者講習会講師	2013年8月	「コーディネーショントレーニングを取り入れた高齢期を支える体力づくり」（富山市総合体育館）
7. 加古川市教育委員会主催家庭教育セミナー講師	2013年6月	「親子スポーツ」（日岡山体育館）
8. 日本体育協会公認上級指導員養成講習会講師	2013年10月	「女性とスポーツ～身体的特徴について」（大阪体育大学）
9. 芦屋市教育委員会主催市民スポーツ啓発講座講師	2012年9月	「運動不足解消と健康管理のためのウォーキング・クリニック」（芦屋市立体育館）
10. 加古川市教育委員会主催家庭教育セミナー講師	2012年6月	「発育・発達に応じた運動・スポーツ」（日岡山体育館）
11. 文部科学省委託事業スポーツ指導者養成講習会講師	2012年2月	「ファミリースポーツ体験」（播磨町総合体育館）
12. 西宮市教育委員会主催スポーツ指導者養成講習会講師	2011年9月	「運営者・指導者の発掘・育成」（西宮市中央体育館）
13. 尼崎市社会福祉協議会介護予防事業講師	2011年4月～2014年3月	「高齢者の生きがいづくり」（鶴の巣園・和楽園）
14. 西宮市教育委員会主催市民スポーツリーダー研修	2011年2月	「中高年のスポーツ・運動スポーツプログラム」（西宮）

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
会講師 15. 全国体育指導委員連合主催近畿体育指導員研究協議会講師	2011年2月	市中央体育館) 「中高齢の運動プログラム」(神戸市立中央体育館)
16. 芦屋市教育委員会主催市民スポーツ啓発講座講師	2011年10月	「運動不足解消と健康管理のためのウォーキング・クリニック」(芦屋市立体育館)
17. 富山県教育委員会スポーツ指導者養成講習会講師	2010年7月	「事業のすすめ方～事業計画・指導計画～」(富山県体育文化センター)
18. 尼崎市老人クラブ研修会講師	2010年2月	「高齢者の健康づくり」(園田区公民館)
19. 尼崎市社会福祉協議会健康力アップ講座講師	2010年	「健康への気づきと運動習慣の定着に向けて」(尼崎市総合老人福祉センター)
20. 尼崎市社会福祉協議会健康力アップ講座講師	2009年	「健康への気づきと運動習慣の定着に向けて」(尼崎市総合老人福祉センター)
21. 西淀川区子育て支援ボランティア養成講座講師	2008年9月	「子どもの育ちと遊び」(西淀川区子ども・子育てプラザ)
22. 尼崎市教育委員会主催コミュニティスポーツリーダー講習会講師	2008年8月	「気軽に取り組めるスポーツ・レクリエーション」(尼崎市青少年センター)
23. 健康運動指導士・健康運動実践指導者登録更新講習会講師	2008年5月	「特定保健指導におけるコミュニケーションスキル」(兵庫県健康財団)
<b>4 その他</b>		
1. 全国スポーツ推進委員研究協議会	2016年11月18日	生涯現役社会の実現に向けたスポーツ推進委員の役割
2. チアリーダー部 顧問	2011年4月～2014年3月	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 幼児体育指導員	2014年7月	日本幼児体育学会認定
2. コーディネーショントレーナー	2012年11月	ライプチヒ大学公認
3. 障害者スポーツ指導員中級資格	2007年3月	公益財団法人日本障がい者スポーツ協会認定
4. 福祉レクリエーション・ワーカー	2004年3月	公益財団法人日本レクリエーション協会認定
5. 日本体育協会公認スポーツ指導者	2000年11月	公益財団法人日本体育協会公認
6. レクリエーション・インストラクター	1997年7月	公益財団法人日本レクリエーション協会認定
7. 中学校教諭専修免許状(保健体育)	1989年3月	
8. 高等学校教諭専修免許状(保健体育)	1989年3月	
<b>2 特許等</b>		

<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. さくらFM番組審議委員	2013年～2014年	審議会において放送番組を聴し感想を述べる他、番組全体の構成等について放送事業者と意見交換する。地域コミュニティ放送としての重要な役割の一つである災害時における情報収集と情報提供の方法について検討を行った。
2. 「トレーニング科学・国際集中講座」派遣指導者(ドイツ・ライプチヒ大学)	2012年2月	公益財団法人ユーハイム体育・スポーツ振興会から派遣され、ドイツ・ライプチヒで開催される「トレーニング科学・国際集中講座」に参加した。帰国後、旧東ドイツにおけるスポーツ科学・スポーツ教育の現状について、ユーハイム体育・スポーツフォーラムで発表した。
3. ひょうご地域スポーツ指導者育成推進委員	2011年～2012年	県内スポーツ振興の中核となるスポーツクラブ、関係団体と連携しながら、実態調査及び講習会を開催し、ファミリースポーツの振興、指導者発掘のプロジェクトに取り組んだ。
4. 尼崎市教育委員会スポーツ審議委員	2009年～現在	尼崎市教育委員会スポーツ審議委員を2009年から努め、2010年度は尼崎スポーツ振興計画策定にかかわる。2013年度はスポーツ振興計画中間評価に向けてスポーツ振興課とともに全市調査を実施し、2014年度は尼崎市スポーツ推進計画(後期計画)策定に関わる。
5. 日本体育協会総合型地域スポーツクラブ育成中央研究員	2006年	総合型地域スポーツクラブ(総合型クラブ)を全国に普及させるために、先進的な取り組みをしているクラブの現状を把握し報告書にまとめるとともに、事業の立案・企画、総合型クラブの育成にむけたアクションプランの検討を行った。
<b>4 その他</b>		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. みんなのスポーツ	共	2014年10月	日本体育社	太田敏勝, 長ケ原誠, 長岡雅美他 担当: p15-17 高齢化がますます進展する地域のコミュニティにおいて、高齢者の多様なニーズにどう応えていくべきか、スポーツのあるべき姿を改めて見つめ、複眼的な視点でその価値を捉えることを通して、高齢者のスポーツライフにおける社会的支援のあり方について提言した。
2. 健康スポーツ学概論—プロモーション, ジェントロジー, コーチング—	共	2013年6月	杏林書院	大津和義, 山羽教文, 萩裕美子, 涌井佐和子, 長岡雅美 他 担当: 第1章1-4「健康福祉論」p30-37 身体活動レベルのプロモーション, 身体活動の中で組織的かつ制度的な活動文化としての特徴をもつスポーツの推進方法に応用したスポーツプロモーションについて触れ, 生涯スポーツの推進をバックアップするサポートロジー(支援学)として最新のコーチング理論をまとめたものである。
<b>2 学位論文</b>				
1. ハンドボールにおけるゲーム観察—攻撃活動について—	単	1991年3月	大阪教育大学大学院教育学研究科, 保健体育専攻, 運動学専修	本研究は, ゲームの実像に即した分析項目を設定し, 勝敗に影響を及ぼす質的な戦術的側面について明らかにすることを目的とした。その結果, 精度の高い速攻が勝敗を分ける大きな要因であることが示された。また, サイド攻撃, カットイン攻撃での質の高さが勝ちにつながる要因であり, これらの攻撃を可能とするグループ及びの個人の技術・戦術能力の向上が求められることが推察された。
<b>3 学術論文</b>				
1. 自治体における成人人口を対象とした運動・スポーツ事業と市民の実施頻度・継続期間・組織所属との関連性 (査読付)	共	2015年9月	生涯スポーツ学研究, vol.12, No.21, 1-13	谷めぐみ, 長ケ原誠, 長岡雅美, 伊藤克広, 玉井久実代, 益富真子 担当: 調査内容検討, データ分析 尼崎市が実施している各種運動・スポーツ推進事業と, 市民の運動・スポーツの実施頻度, 活動の継続期間, チームやクラブ等の組織への所属, それぞれとの関連について判別分析を用いて検討した。
2. 社会を育てるスポーツの力—高齢者におけるスポーツの心理的・社会的効果に着目して— (査読付)	単	2012年11月	人間福祉学研究, vol.5, No.1, 39-50	スポーツを非日常性という概念からではなく, 日常的な生活を繰り広げる生活者の視点からその特性について触れ, 生活者がスポーツからどのような恩恵を受けるのか, 精神的, 社会的な効果について示し, スポーツが暮らしや地域の活力になることについて検討するものである。
3. レクリエーション教育の効果について (査読付)	共	2010年3月	自由時間研究, 36, 76-84	山本存, 長岡雅美, 田島栄文, 弘原海剛, 和久宗利, 中山ふみ江 担当: 論文執筆, 調査内容検討, データ分析 レクリエーション協会が認定する課程認定校において, 多様な専門領域で学ぶ学生にとって, レクリエーション教育がどのように活かされるのか, 質問紙調査の結果から考察したものである。
4. 生涯スポーツ社会の実現に向けた地域スポーツ学校運動部活動の連携の可能性	単	2009年3月	人間学研究, 24, 37-42	日本のスポーツ基盤である学校体育, 中でも学校運動部活動について, 教育課程の中でどのように位置づけられてきたのか, 現在までの経緯を追求し, 学校運動部活動の役割と意義の明確化を図りながら, 地域スポーツとの連携のあり方を検討する。
5. シニア世代によるボランティアグループの活動に関する研究—活動の現状と活性化に向けた課題を中心に— (査読付)	単	2009年3月	レジャー・レクリエーション学研究, 62, 33-42	高齢化がますます進展する地域のコミュニティにおいて, 高齢者の潜在的な能力を引き出す活動としてボランティアに焦点をあて, ボランティア実践者の質問紙調査結果から活動の活性化に向けた課題について考察したものである。
6. シニア世代の社会参加促進をめぐる取り組み—A市「地域福祉サポート事業あり方検討会」の試み— (査読付)	単	2009年3月	自由時間研究, 34, 3-29	シニア世代の社会参加をめぐって地域でいかなる取り組みがなされているか, A市のある事業を取り上げ, その企画立案の背景から検討会実施までの概要を踏まえた上で, 事業の特徴, 効果, 評価の視点について述べ, 今後のシニア世代の社会参加促進に関わる検討課題について考察した。
7. シニア世代におけるボランティア活動の支援プログラムに関する基礎的研究—レクリエーション活動としての効果に着目して— (査読付)	単	2008年3月	自由時間研究, 33, 79-32	地域支援事業のボランティア活動実施者への調査を通して, ボランティア活動が, ボランティア実施者自身にもたらすレクリエーションとしての効果について考察し, シニア世代におけるボランティア活動の支援システムや拠点づくりに資する基礎的資料を得た。
8. 総合型地域スポーツクラブ発展の可能性—地域スポーツクラブにおける内部組織の変革から—	単	2008年3月	人間学研究, 23, 49-54	スポーツ活動のあり方, スポーツの楽しさを享受できる環境づくりに向けて, 学校, 地域が一体となった新たな体制づくり, 基盤づくりの必要性が指摘されている中で, 全国で総合型地域スポーツクラブ育成が進められている。本稿では, 地域におけるスポーツ活動に着目し, 基盤となる既存の地域スポー

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
9. 本学学生の体力について第8報-2 007年春学期履修生の測定結果よ りー	共	2008年3月	関西学院スポーツ科学 ・健康科学研究, 11, 2 5-31	ツクラブの内部組織の変革から、総合型地域スポ ーツクラブ育成の可能性について検討したものである 。 河鱈一彦, 甲斐和彦, 佐藤博信, 中山悌一, 中塘二 三生, 長岡雅美, 森田茂 担当: 調査測定, データ分析 2007年度春学期にスポーツ科学・健康科学科目を 履修した学生における体力テストの測定結果に焦点 をあて、全国平均との比較に及び2000年度からの測 定結果における年次推移について検討し、履修学生 の体力の現状を把握した者である。
10. 地域高齢者の社会参加の現状 (査 読付)	単	2008年3月	自由時間研究, 32, 28- 34	本稿は、地域事業の参加者への調査を通して、高 齢期における社会参加の活動の現状を把握しようと したものである。その結果、高齢者の社会活動へ の積極的な参加と、長期にわたる継続を促進するた めには、既存の社会資源の活用とソーシャル・サポ ートの提供者である同好の仲間や友人が必須の条件 であることが明らかとなった。
11. 地域におけるスポーツ環境整備― 地域スポーツ活動の拠点としての 学校体育・スポーツ施設の現状―	単	2008年3月	武庫川女子大学紀要 人文・社会科学編, 56 , 61-68	地域におけるスポーツ環境の直接的な問題の一つ である学校体育・スポーツ施設を取り上げ、学校施 設の開放状況と利用実態から問題点を洗い出し、児 童・生徒を含む地域住民のスポーツの場として有効 に活用するための方策について検討する。
12. 福祉レクリエーション援助の目標 設定と評価について (査読付)	単	2007年3月	自由時間研究, 30, 32- 39	高齢者に向けたレクリエーション援助を対象とし て、レクリエーションの本質を踏まえた目標の設定 と評価の可能性について、特に身体的側面に焦点を あて考察した。その中で、身体的目標の観点を提案 し目標設定から評価目設定までの手順について、具 体的な記述の仕方を示しながら、そのプロセスを整 理した。
13. 本学学生の体力について第7報-2 006年春学期履修生の測定結果よ りー	共	2007年3月	関西学院スポーツ科学 ・健康科学研究, 10, 2 3-29	河鱈一彦, 甲斐和彦, 佐藤博信, 中山悌一, 中塘二 三生, 長岡雅美, 森田茂 担当: 調査測定, データ分析 2006年度春学期にスポーツ科学・健康科学科目を 履修した学生における体力テストの測定結果に焦点 をあて、全国平均との比較に及び2000年度からの測 定結果における年次推移について検討し、履修学生 の体力の現状を把握した者である。
14. 生涯スポーツ社会におけるスポ ーツの一貫支援体制―スポーツク ラブの自己組織化とその支援の観点 から―	共	2007年3月	武庫川女子大学紀要 人文・社会科学編, 55 , 89-98	長岡雅美, 赤松喜久 担当: 論文執筆, 調査内容検討 本論文は、地域のスポーツ活動における「支援」 とは何か、地域におけるスポーツ活動の有効な「支 援」はいかにしたら実現するかという点について、 わが国の地域におけるジュニアスポーツクラブとし て定着しているスポーツ少年団を事例に検討を試み たものである。
15. スポーツ環境の変化とスポーツ・ ボランティアの必要性	単	2007年3月	武庫川女子大学人間学 研究, 22, 31-35	これまでわが国では、学校と企業を中心にスポ ーツ活動が行われてきたために、自らのスポーツ活 動のための環境を主体的に創り出すという意識が根付 いていない。スポーツ・ボランティアの必要性を確 認しながら、ボランティアを一層拡充していくため の組織運営に携わるスタッフの発掘や、育成システ ムの構築について考察した。
16. 運動プログラムを中心としたレク リエーション活動におけるリス クマップの整備に関する研究 (査読 付)	単	2007年3月	自由時間研究, 31, 9-5 2	運動プログラムを中心としたレクリエーションプ ログラムはその特性上、他のプログラムに比べ明ら かにリスクが高い。本稿は高齢者介護福祉施設にお けるレクリエーション活動のリスクマネジメントに 活かすため、施設職員のヒヤリングからリスクマ ップを整備し、その活用に向けた基礎資料を得るこ とを目的としたものである。
17. 高齢者福祉施設における「運動器 の機能向上」事業の取り組みに関 する研究 (査読付)	単	2006年3月	自由時間研究, 29, 34- 43	高齢者福祉施設における「運動器の機能向上」事 業の現状、施設が抱えている問題と課題を明らかに するために調査を実施し、高齢者が定期的かつ継続 的に運動やスポーツに親しむ環境を整え、介護予防 事業の拡充を図っていくための基礎資料を得ようと したものである。
18. 総合型地域スポーツクラブ育成に おけるスポーツ少年団のあり方	単	2006年3月	人間学研究, 21, 35-40	全国の地方自治体で総合型地域スポーツクラブの 設立に向けた取り組みが行われる中、スポーツ少年 団がその育成にどのようなかかわりを持つことが求 められるのか検討し、基本的な考えを整理したもの である。
19. 地域住民のスポーツ行動を規定す る要因についての基礎的研究-Y 市における市民を対象とする調査 結果よりー	共	1998年1月	大阪教育大学紀要, vol .46, No. 2, 207-219	長岡雅美, 赤松喜久 担当: 論文執筆, データ分析 地域住民のスポーツ行動に関する調査を基に、ス ポーツ行動を規定する要因についての次元の縮約を 試みることによって、スポーツ実施の実状を把握し 、今後の地域スポーツ振興に有用となる知見を得よ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
20. 余暇活動参加の現状－「健康とスポーツに関するアンケート」分析結果より－	単	1997年3月	武庫川女子大学人間関係学科人間学研究, 12, 47-51	うとしたものである。人々とスポーツとの関係の特定化は、限定的に特定層を対象にスポーツ事業を提供する場合に限らず、地域住民の福利・厚生に向けて提供していく場合においても、その重要性を指摘している。 スポーツと健康に関するアンケートから、スポーツ実施の現状を把握するとともに、余暇活動の一つであるスポーツ活動を、単に健康や体力問題を解決する手法としてではなく、スポーツ自体を目的化された生活の質の内容そのものとして捉え、その必要性を記述している。
21. レクリエーション活動の今日的意味	単	1996年3月	武庫川女子大学人間関係学科人間学研究, 11, 51-56	時代とともに変化する余暇とレクリエーションの関わりに注目しながら、レクリエーション活動の果たす役割、今日的意味について述べている。また、レクリエーション活動の中から、伝統的実技とスポーツ活動を取り上げ、それぞれの特性と個人や集団にもたらす効果について説明している。
22. ハンドボールにおけるゲーム観察－攻撃の導入について－	共	1995年9月	大阪教育大学紀要, vol.44, No.1, 55-58	村上誠治, 土井秀和, 長岡雅美 担当: 測定項目検討, データ収集, データ分析, 資料作成 攻撃活動の導入部分の観察から、パターン分類を行い、それに対応する防御隊形の変化について分析したものである。さらに、有効な攻撃の導入方法を最終局面との相関によって導き出した。
23. ハンドボールにおけるゲーム観察－ゲーム構造の構築に向けて－	共	1995年2月	大阪教育大学紀要, vol.43, No.2, 199-209	長岡雅美, 土井秀和, 村上誠治 担当: 論文執筆, データ収集, データ分析 ボールゲームの全体像を把握するため、ゲーム構造のモデル化を試み、さらに実際のゲーム観察によって、モデルの検証を行ったものである。ボールゲームにおける戦術分析を体系化するための基礎的研究であり、モデルを用いたボールゲームの分析は、新しい試みでもある。
24. ハンドボールにおけるゲーム分析－第10回女子世界選手権大会を事例として－	共	1993年9月	大阪教育大学紀要, vol.42, No.1, 73-82	長岡雅美, 土井秀和 担当: 論文執筆, データ分析 世界のトップチームが参加する世界選手権大会を対象とし、特にゲームにおける攻撃活動に着目しながら、ゲーム構造の特性とその発展傾向を考察するとともに、統計的手法を用いることによって、ゲームの勝敗に影響を及ぼす要因について分析したものである。
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
<b>2. 学会発表</b>				
1. 運動能力テストからみた幼児期におけるコーディネーション能力の特徴	単	2016年8月	日本幼児体育学会第12回大会	運動能力の中心コンポーネントであるコーディネーション能力に着目し、幼児の基本的運動能力の縦断的測定からコーディネーション能力の発達の特性について検討する。
2. 自治体における成人人口を対象とした運動・スポーツ事業と市民の実施頻度・継続期間・組織所属との関連性	共	2016年5月	兵庫体育・スポーツ科学学会第27回大会	谷めぐみ, 長ヶ原誠, 長岡雅美, 伊藤克広, 玉井久実代, 益富真子 担当: 文章校正, データ分析 データH県A市の各種運動・スポーツ推進事業と、A市スポーツ推進施策でもある市民の運動・スポーツの実施頻度、活動の継続性、組織への所属との関連について検討した。
3. 幼児教育・保育における運動遊びの現状と運動指導に対する保育者の意識	単	2015年12月	日本レジャー・レクリエーション学会第45回大会	幼稚園及び保育園に勤務する208名の保育者を対象に質問紙調査を実施し、園(所)での運動指導の内容、最も力を入れている保育内容、運動指導に関する考え、保育者の観察による幼児の運動の出来等から運動指導における現状と子どもの運動発達について検討した。
4. 尼崎市の地域スポーツ指導者の実態と活動ニーズに関する質的・量的研究	共	2014年6月	兵庫体育・スポーツ科学学会第25回大会	谷めぐみ, 長ヶ原誠, 長岡雅美, 伊藤克広, 玉井久実代, 益富真子 担当: 文章校正, データ分析 地域のスポーツプロモーションに関わる指導者の実態や意識が十分に把握されていない現状を踏まえ、運動・スポーツを支援している地域スポーツ指導者に対して質問紙調査及びヒヤリング調査を行った。「スポーツ栄養」「対人関係スキル」について専門的知識習得のニーズが高い他、課題としては指導者の高齢化に伴い後継者の育成に苦慮している現状が明らかとなった。
5. レクリエーション教育における授業効果	共	2009年11月	日本レジャー・レクリエーション学会第39回学会大会	茅野宏明, 長岡雅美, 松尾純子 担当: 文章校正, データ分析 レクリエーション教育のカリキュラムの一つである宿泊型プログラムを対象として、その成果の持続

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
6. レクリエーション教育における実践的展開の報告	共	2008年11月	日本レジャー・レクリエーション学会第38回学会大会	性について調査した。プログラム終了直後と3ヶ月後と比較した結果、「問題に対する最善策の検討」「話しやすい環境づくり」「ルールを守る」項目において向上し有意な差が見られた。 茅野宏明, 吉田圭一, 長岡雅美 担当: 文章校正, データ分析 武庫川女子大学及び同短期大学部で過去20数年にわたって実施されている, レクリエーション関連資格のための教育プログラムである宿泊型教育プログラムについて, 研修場面の報告と今後の課題について発表した。
7. 障がい者アスリートにみるスポーツ活動と経済一車椅子バスケットボール代表選手への調査からー	共	2007年03月	大阪体育学会第45回大会	長岡雅美, 永松昌樹, 高橋明 担当: 発表者, データ分析 障害者がスポーツを実践するための経済的負担について把握することを目的に2006年国際親善車椅子バスケットボール大阪大会に出場した日本, カナダ, オーストラリア, 中国の選手を対象に調査を実施した。その結果, 障害を持つ人がスポーツを実践するためには, 経済的に自立していなければその負担は大きく, ある程度の収入あるいは補助や支援が無ければスポーツを始めること, 継続することが困難であることが明らかとなった。
8. 児童の自由時間における遊びに関する事例研究	共	2001年12月	日本レジャー・レクリエーション学会第31回学会大会	長岡雅美・永松昌樹・森知香 担当: 発表者, データ分析 近年子どもたちの遊びは「群れ型」から「孤立型」へシフト, 屋外の遊びより, 屋内での遊び時間が増加する傾向にある。このような遊び形態の変化は, 児童の健康問題に影響を及ぼしていると思われる。本研究は, 自然学校での子どもたちの活動を取り上げ, 日常の遊びとの違いについて調査したものである。その結果, 日常とは違った環境においても児童の遊びには大きな変化はなく, 児童の遊びは, 受け身, 単一化していると示唆される。
9. 「レクリエーション・スポーツクラブの活動状況と意識に関する事例研究」ークラブ活動への参加状況と加入状況による意識の違いについてー	共	2000年11月	日本レジャー・レクリエーション学会第30回学会大会	長岡雅美, 松永昌樹, 宮崎千絵 担当: 発表者データ分析 本研究は, 中高年者が所属するクラブを対象として調査を行い既存スポーツクラブの現状を把握することを目的としたものである。「クラブへの活動状況」ならびに「クラブへの加入状況」からクラブ活動に対する行動意識の違いについて検証し, 得られた結果から地域スポーツクラブの育成事業が進められている中で, 適切なクラブ育成の方法や方向性について検討を行った。
10. ハンドボールにおけるゲーム観察 第2報	共	1995年10月	日本体育学会第46回大会	長岡雅美, 土井秀和, 村上誠治 担当: 発表者, データ収集, データ分析 ゲームを構成する局面の中から, 「ボール獲得→速攻」の部分を取り上げ, 速攻を成功させる要因について分析したものである。ボールの獲得状況から攻撃活動に移行する経過を具体的に示し, 2局面にわたる戦術的理解を可能とした。
11. ハンドボールにおけるゲーム分析ー勝敗に影響を及ぼす各ポジションの役割についてー	共	1994年12月	大阪体育学会第33回大会	村上誠治, 土井秀和, 長岡雅美 担当: データ分析 プレイヤーの攻撃力の評価に関して, 従来の単独的な項目による評価法から, 総合的にプレイヤーを評価する方法を提案し, 客観的なデータをもとに, 各ポジションの役割, 専門性について明らかにしたものである。
12. ハンドボールにおけるゲーム観察ーゲーム構造の構築に向けてー	共	1994年12月	大阪体育学会第33回大会	長岡雅美, 土井秀和, 村上誠治 担当: 発表者, データ収集, データ分析 戦術的側面の分析の方法論を確立するため, その端著的な研究として攻撃・防御の両活動を含めたゲーム構造の構築を試みたものである。最終局面のみの分析にとらわれず, ゲームの全体像を把握することによって, ボールゲームのゲーム観察に対する新しい考え方が可能となると思われる。
13. ハンドボールの評価に関する基礎的研究	共	1994年10月	日本体育学会第45回大会	村上誠治, 土井秀和, 長岡雅美 担当: データ分析 個々のプレイヤーのゲーム成果に着目し, チームのゲーム成果への貢献度によってプレイヤーの評価を試みたものである。分析項目の組み合わせにより, 独自の算出式を考案しゲーム成果を式にあてはめることによって, プレイヤーの評価を行った。
14. ハンドボールにおけるゲーム分析ーアジアハンドボール選手権大会を事例としてー	共	1994年10月	日本体育学会第45回大会	長岡雅美, 土井秀和, 村上誠治 担当: 発表者, データ分析 アジアのハンドボールは, ソウルオリンピックでの韓国チームのメダル獲得により, その競技力が著しく向上した。体格面で劣るアジアのチームが, ヨーロッパのチームに対して, 優位にゲームを進める

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
15. ハンドボールにおけるゲーム分析－第10回世界選手権（女子）を事例として－	共	1993年12月	日本体育学会第44回大会	ために採用すべくゲーム構想について、アジア選手権を対象に、分析を行ったものである。 長岡雅美, 土井秀和 担当：発表者, データ分析 世界をリードする各国のナショナルチームの公式試合記録に、統計的処理を加え、ゲーム構造の特性と発展傾向について明らかにしたものである。客観的なデータを得るため、データ処理にあたっては、多重ロジスティック回帰分析が用いられている。
16. ハンドボールにおけるトップレベルの攻撃について－世界選手権（女子）を通して－	共	1992年12月	大阪体育学会第31回大会	長岡雅美, 土井秀和, 村上誠治 担当：発表者, データ収集, データ分析 ハンドボールの“点取りゲーム”としての競技特性を踏まえて、ゲームにおいて効率良く得点をするための方法とそれに関わる戦術的要因について、統計的手法を用いて分析したものである。さらに、世界のハンドボールの発展傾向を考察することで、日本チームのトレーニングの方向性についても検討している。
17. ハンドボールにおけるゲーム観察－世界選手権と全日本学生選手権の比較を通して－	共	1992年12月	日本体育学会第43回大会	長岡雅美, 土井秀和 担当：発表者, データ収集, データ分析 世界選手権と全日本学生選手権を対象として分析を行い、それぞれのゲームの戦術的特徴について明らかにしている。また、その結果から、異なる2つのレベル間におけるゲーム構造及び勝敗の規定因について比較分析を行っている。
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 金メダルへのみちしるべ 初歩の動作学－トレーニング学	共	2014年3月	Lehmanns Media	高橋日出二, 綿引勝美, 上田憲嗣, 長岡雅美, 多田久剛, 横手健太, 鈴木タケル, 豊田太郎 C. Hartmann, H. Minow, G. Senf, 『Sport verstehen-Sport erleben』 スポーツ科学・トレーニング学の背景を明らかにし、スポーツ行為を根拠づけるさまざまなテーマについて理解を深めるために、ドイツのスポーツギムナジウムで使われている教科書を翻訳したものである。 担当：スポーツ専門用語の整理確認
2. 第8回トレーニング科学・国際集中講座報告書	共	2012年8月	公益財団法人ユーハイム体育・スポーツ振興会	野口研治, 倉直樹, 春名桂, 長岡雅美, 岡みゆき 担当：p16, 17, 21-23, 30, 38, 39 ライプチヒ大学スポーツ科学との交流協定に基づき取り組まれている国際集中講座の内容がまとめられている。中でも、ライプチヒ学派の「コーディネーション理論」「動作観察法」「タレント発掘・育成」など指導者において重要な基礎理論に重点が置かれている。
3. 地域に貢献する大学体育の在り方	単	2012年7月	全国大学体育連合	大学は教育と研究を本来的な使命としているが、同時に、大学に期待される役割も変化しつつあり、現在においては大学の社会貢献の重要性が強調されている。他大学や海外の事例を踏まえ、大学のスポーツ資源を活用した地域貢献の可能性について言及した。
4. 幼児期におけるコーディネーショントレーニングを取り入れた運動遊び	単	2012年12月	ユーハイム・スポーツフォーラム2012	幼児期における運動・スポーツの重要性を指摘し、文部科学省が発表した幼児期運動指針に沿って、コーディネーショントレーニングを取り入れた運動あそびの展開例を紹介した。
5. 生涯スポーツの指導・普及について	単	2011年6月	阪神北地区体育指導委員会総会	生涯スポーツ社会の実現に向けて、人々はどうのようにスポーツを捉えるべきか、また指導者は、何をどのように指導すべきなのかについて提言した。
6. レクリエーション教育の効果Ⅱ～学生への聞き取り調査から～	共	2011年5月	日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校全国研究集会	山本存, 長岡雅美, 田島栄文, 弘原海剛, 和久宗利, 中山ふみ江 担当：調査・結果分析評価 レクリエーション協会が認定する課程認定校において、多様な専門領域で学ぶ学生にとって、レクリエーション教育がどのように活かされるのか、先に行った質問紙調査の結果に加え、聞き取り調査の結果からより質的にな部分に踏み込んで考察したものである。
7. 生涯スポーツから健康を考える	単	2010年9月	阪神・丹波地区生涯スポーツ指導者研究会	「レクリエーション」についてその概念規定を明確にした上で、スポーツとのかかわりを再確認し、生涯スポーツ社会の実現に向けて、人々はどうのようにスポーツを捉えるべきか、また指導者は、何をどのように指導すべきなのかについて提言した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
8. スポーツ少年団の発展と地域における役割—地域スポーツクラブとの連携の可能性から—	単	2007年6月24日	全国スポーツ少年団指導者研究大会	地域における組織の認知度と市の政策との視点からスポーツ少年団と総合型地域スポーツクラブの関係を分析し、スポーツ少年団の更なる発展のための課題について提案した。
9. 高齢者に向けたレクリエーションプログラムの提供	単	2007年	尼崎地域サポート支援事業交流会	社会福祉サービスにおけるレクリエーションの位置づけを明確にし、地域福祉におけるレクリエーション支援の方向性について概観しながら、アセスメントから具体的なプログラム提供、評価にいたる一連のプロセスについて提示した。
10. 地域における高齢者ボランティアグループの活動継続に向けて—社会参加の現状から—	単	2007年	尼崎地域サポート支援事業交流会	地域事業を事例として高齢期における社会参加の活動の現状を把握し、高齢者の活動上の問題点や継続のための条件について考察し、地域における高齢者の社会参加を促進するための条件について具体的な提案をした。
11. 地方・地域体育協会を中心としたクラブ育成に関する調査研究事業	共	1999年3月	日本体育協会	有澤駒雄, 赤松喜久, 古田峰子, 前田嘉昭, 松田雅彦, 坪田信道, 長岡雅美, 永松昌樹 担当：データ分析 本報告書は、日本体育協会の総合型地域スポーツクラブ育成モデル指定地区16地区のクラブ員及び指導者を対象に調査を実施し、その結果をまとめたものである。
12. 生涯スポーツ団体等による生涯スポーツの核となるクラブづくりの在り方に関する研究開発—文部省生涯学習局委託事業—	共	1997年3月	日本体育協会	有澤駒雄, 赤松喜久, 古田峰子, 前田嘉昭, 松田雅彦, 坪田信道, 長岡雅美, 永松昌樹 担当：データ分析 総合型地域スポーツクラブの育成に向けて、モデルクラブを6地区を指定し、体育・スポーツ関係者、学校関係者、有識者等による「スポーツクラブ育成協議会」を中心に、地域住民参加のスポーツ体験教室やスポーツ交流イベントを実施し、総合型地域スポーツクラブの組織化に向けた実践的な活動をまとめた。

6. 研究費の取得状況

1. 文部科学省スポーツ・青少年局企画事業	共	2015年4月～2016年3月	文部科学省スポーツ・青少年局	体育、保健体育科の授業、運動部活動における情報機器を効果的に活用した指導の在り方
2. 兵庫体育・スポーツ科学学会学術研究助成	共	2013年4月～2014年3月	兵庫体育・スポーツ科学学会	地域スポーツ指導者の実態と活動ニーズに関する質的・量的研究
3. 課程認定校研究助成事業	共	2010年4月～2011年3月	日本レクリエーション協会	レクリエーション教育の効果に関する研究Ⅱ
4. 課程認定校研究助成事業	共	2009年4月～2010年3月	日本レクリエーション協会	レクリエーション教育の効果に関する研究Ⅰ
5. 課程認定校研究助成事業	単	2007年4月～2008年3月	日本レクリエーション協会	シニア世代におけるボランティア活動の支援プログラムに関する基礎的研究

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2014年8月～現在	日本幼児体育学会
2. 2010年4月～現在	兵庫スポーツ体育学会
3. 2000年4月～現在	日本レジャー・レクリエーション学会
4. 1989年4月～現在	大阪体育学会
5. 1989年4月～現在	日本体育学会